

結核について

都の結核の発生状況（平成 29 年）

新登録患者数	2,213 人
り患率*	16.1（全国 3 位）（*り患率：人口 10 万人当たりの患者数）
死亡者数	241 人

結核の症状

咳・痰、胸痛などの呼吸器症状に加え、発熱（微熱）、体重減少、寝汗、強いだるさ等です。症状が長く続く場合には注意が必要です。

結核の感染経路

結核は空気感染する病気です。通常は菌が肺の末端（肺胞）に入ったときのみ感染し、衣服や皮膚、水、食べ物からは感染しません。

結核の感染と発病の違い

感染

結核菌が体内に入っているものの何の症状も示していない状態をいいます。他人に感染を広げる可能性はなく、各種検査でも異常はありません。抗結核薬を内服することで発病リスクを約 70%抑えることができますといわれています。

なお、感染した者のうち、発病するのは約 10～20%といわれており、通常 6 か月から 24 か月の間に多いとされています。

発病

結核菌が体内で増殖し、身体に何らかの異常や症状を引き起こす状態をいいます。菌が少ない初期には感染性はありませんが、病状が進行すると咳や痰の中に菌が大量に排出され（排菌）、感染拡大につながります。

接触者健診

患者が発生した際、その患者の接触者に対して、感染や発病の有無を調べるために実施します。

通常は接触状況に応じてグループ分けし、接触度の高い者から順に検査を実施します。なお、検査には以下のものがあります。

- ・発病の有無を調べる検査：胸部エックス線検査など
- ・感染を確認する検査：IGRA（血液）検査、ツベルクリン反応検査など

集団感染

国への報告が必要となる集団感染事例とは、以下のとおりです。

同一の感染源が 2 家族以上にまたがり、20 人以上に結核を感染させた場合をいう。但し発病者 1 人は 6 人が感染したものとして計算する。